

中学校英語スピーキングテスト結果の令和6年度都立高校入試への活用中止に関する陳情

(文教委員会付託)

受 理 番 号 第 6 号

受理年月日 令和5年6月12日

付託年月日 令和5年6月20日

陳 情 者 ・ ・ ・ ・ ・
 ・ ・ ・ ・ ・

陳 情 原 文 東京都教育委員会（以下都教委）はベネッセ・コーポレーションと協定を結び、令和4年度に全公立中学3年生を対象に中学校英語スピーキングテスト（E S A T－J）を実施し、その結果を令和5年度都立高校入試の合否判定に活用しました。これには多くの問題点があることが専門家、教員、保護者等から指摘されていますが、さらに今年度は入試で活用するだけでなく、新たに1・2年生でもスピーキングテストを実施しようとしています。E S A T－Jは11月末に設定されており、期末テストや評定作業などで、中学3年生と担当教員にとって、最も気の張る時期であり、ここにE S A T－J前後の実務が重なり、生徒と現場の教員に多大な負担がかかっている点は深刻であり、看過できません。以下、問題点、懸念を述べます。

1 透明性・公平性・公正性・個人情報保護の観点から。

- ① 受験生に送られたスコアレポートでは、どうしてそのような得点になったのかはわからず、正しい採点だったかの確認もできません。
- ② 不受験者には、学力検査の得点が同じ受験生のE S A T－J結果から見込み点が与えられましたが、その妥当性を示す統計的根拠はありません。都教委もそれを認めながら実際の合否判定への影響について一切明らかにしていません。
- ③ 試験当日には解答に影響する「音漏れ」があったと受験生・試験監督から多くの指摘がありました（「前半の生徒の声が後半の生徒に聞こえた」「同じ部屋の他の生徒の解答音声聞こえた」など）。都教委は「解答に影響する事例の報告はなかった」と言い通しました。
- ④ E S A T－Jの出題範囲は「中学校学習指導要領に基づく内容とする」としていながら、実際にはそれを逸脱する出題がありました。生徒はどこまで勉強をすれば良いのかがわからなくなっています。
- ⑤ 受験手続終了直前、8人に採点ミスのあったことが明らかになりましたが、詳しい原因と改善策が明らかにされていません。

(裏面に続く)

- ⑥ このテストでは、個人情報（顔写真含む）をベネッセのサイトに登録する必要があります。情報漏洩の危険性、個人情報利用の不透明さが懸念されます。

2 授業と英語教育の質の低下、教育格差拡大の懸念。

- ① 入試にスピーキングテストが入ったことで、試験で点数をとることを動機づけた学習が進むことが懸念されます。人間とのやり取りではなく機械に向かって一方的に説明する問題で、英語でのコミュニケーション力を測ることができるのか、向上させることができるのかは疑問です。
- ② 経済的に厳しい状況の家庭の子どもには、英語スピーキングテストは不利に働きます。新学習指導要領によって英語教科書がさらに難しくなる中、塾に通える子とそうでない子の間で格差が広がります。公教育は、すべての生徒の英語の力を伸ばすために行われるべきです。話す力も含めた英語の力を伸ばすのなら、すべての小中学校の学級人数を少なくするのが最も効果的です。

以上の理由により、E S A T－J 結果の入試活用の中止を求めます。

つきましては、下記のとおり陳情いたします。

記

貴議会において、東京都教育委員会に中学校英語スピーキングテスト（E S A T－J）結果の令和6年度都立高校入試への活用を中止するよう意見書を提出してください。